授業科目名[英語名]							
環境汚染昨日・今日・明日[Global Environmental Problems、 learning from the past]							
担当教員名[連絡先(TEL,研究室など)]							
秋葉澄伯[099-275-5295]							
E-Mail	akiba@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp		受講対象	全学部			
課程区分	共通教育	学科/科目・分野等	教養 3分野	開講期	前期木曜2	単位等	2.0
共同担当教員名							
安藤　哲夫　099-275-5297（医歯学総合研究科人間環境学講座疫学・予防医学）　ando@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp							

教育目標のキーワード

/

学習目標（学生の達成　目標）

人々にとって地球とは何か、地球環境とは何かを環境汚染の過去および現在の事例から学び、近未来・未来の地球環境を考える。講義では事例の紹介に留まらず、事例の解釈についての様々な研究者の対立する主張を採り上げ、学生諸君に将来に役立つであろう解釈・主張を構築することを求めたい。特に、食物連鎖を経由して発生したことで公害の原点と言われる「熊本水俣病」を数度に亘り題材にする。その中で、水俣病患者発生までの「生態系の異常」とは何かを通して人間社会における環境汚染への理解がどのようなものであったかを考えてもらうものでもある。教員の主張を含めて、学生諸君に大いに批評・反論を求めたい。

授業概要（目的･内容･方法）

私達人間は地球環境に適応しながら、石器という道具を生み出した旧石器時代に世界人口300万人を養う食糧確保手段を獲得した。その後、チグリス・ユーフラテス川中流で始まった農耕（農耕牧畜革命）と産業革命（人工移動手段＋化学肥料の発明）を通して大量の食糧確保に成功し、63億人の人口を養えるまでになった。中生代の爬虫類は別格だが、地球史上、これほど栄えた高次消費者としての動物種はいない。ところで、我々はさらに栄えるのだろうか、いまや滅亡の道に足をふみいれたのであろうか。旧石器の人々は食糧確保のために地球環境に忍従してきただけだろうか。農耕、牧畜は人々が地球環境と共存していた時代だったのであろうか。産業革命がもたらした人為的地球環境に対し、人間以外の生物を無視（巧みに利用）しながら、今日の繁栄を得ているのだろうか。講義では、過去の環境汚染の実体を学習し、その反省の下でもなお様々な環境汚染が現在も発生しているか否かを知り、未来（次世代）に残すべき地球環境の理想を、学生諸君と共に考えようとするものである。

授業計画（15回に分けて、回数、日付、授業内容、授業外活動など）

○環境リスクの評価と疫学Ｉ（秋葉）
○環境汚染の背景（以下は安藤）
○環境汚染の原点/足尾鉱毒事件・水俣病/水俣病・空白の病像（ビデオ）
○新潟水俣病の原因の検証
○水俣病以外の公害
○農薬・環境ホルモン
○世界の環境汚染
○地球環境問題、酸性雨・オゾン層破壊、地球温暖化
○環境教育・ドイツの取組みを通して/リサイクルかリユースか/循環型経済社会とは何か？
毎回、Ａ４版の出席票を配布する。出席票は出席チェック票でもあるが、学生諸君は、そのの日の講義に対して自分の意見（質問・疑問・反論・不満等全て）を述べる用紙でもある。学生諸君の意見はQ&Aとして（匿名で）翌週の講義にプリントとして配布します。自分の意見と同級生の意見を比べ、同じ講義を受けて同級生がどのような考えを持ったのかを知ることを通して、多くの意見を知ることの貴重で楽しい経験をしてください。

受講要件	特になし。ただし、生物学と化学の知識が無いより有った方が楽しいかもしれない。 だからといって文系の学生がひるむ必要はありません。後半の環境教育は諸君の出番です。		
評価基準および方法	毎回の出席票はミニレポート形式になっているので、このレポートで80点分を評価する。 20点分は各回の講義から１題を選び、自分の解釈を述べたもののレポートで評価する。		
教科書	無し。必要に応じてプリントを配布します。プリントはその日の講義に対する内容のため、直接的な予習はほとんど出来にくいことをお知らせしておきます。復習は大いに可能です。	**参考書**	『沈黙の春』
授業時間外対応(オフィスアワー、授業後、学習シートなど)	金曜日　13：00～17：00　　【授業後】出席票への対応 ando@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp	**その他**	何らかの理由（就職活動等）で出席できない時も、事前・事後に報告があれば資料（プリント）の確保はできる。